

平成 24 年度大台ヶ原森林生態系保全再生に係る取組内容について

1. 目的

大台ヶ原自然再生推進計画（第 2 期）に基づき、植生及び動物モニタリング、森林生態系保全再生の具体的取組に関する実験・調査等を行うとともに、森林生態系保全再生の検証及び評価に係る資料作成を行い、その結果に基づいて、事業の評価に係る資料を作成する。

2. 内容

(1) 森林生態系保全再生に係る具体的取組

1) 防鹿柵の設置箇所の検討（資料 1-2）

大台ヶ原における区域保全対策として、今後防鹿柵の設置が必要な箇所の検討とその全体量を把握し、それら設置候補地点の優先順位を決定する。

2) 剥皮防止用ネットの設置範囲の検討（資料 1-3）

東大台における単木保護対策として、今後剥皮防止用ネットを実施する必要がある箇所の検討とその全体量を把握する。

3) 自生稚樹の保護手法の検討（資料 1-4）

自生稚樹がまばらに分布している場所における具体的な保護手法の検討を行う。

4) 苗木の試験植栽計画の立案（資料 1-5）

森林後退の場所における森林更新の場を保全するための苗木の植栽場所及び方法について計画案を策定する。

5) イベント及び地元勉強会の企画・実施（資料 1-6）

地元（上北山村）小中学生を対象としたイベント及び地元勉強会を実施する。

(2) 具体的取組に係るモニタリング調査

1) 環境条件調査

効果検証の基礎資料とするため、気温・雨量について調査を実施する。

2) 大台ヶ原を特徴付ける生態系の保全のための取組に係るモニタリング調査

防鹿柵設置効果検証のため、植物相調査を実施する。

3) 森林の更新環境の回復のための取組に係るモニタリング調査

① 過剰な動物影響や菌害の抑制による実生の成長促進のため小規模防鹿柵（西大台）内において植生調査等を実施する。

② 林床のミヤコザサの抑制のため下層植生調査、土壌流出モニタリングを実施する。

③ 実生生育基質調査取りまとめ

過年度に行われた実生生育基質調査の結果をとりまとめ、トウヒを含む針葉樹の実生とそれらが生育している定着基質（倒木・根株）、実生とコケの種類の関係について評価を行う。

4) 森林後退の抑制のための取組に係るモニタリング調査

ミヤコザサから森林への遷移を把握するため、自生稚樹生育調査を実施する。

(3) 西大台利用調整地区植生モニタリング

西大台地区を利用調整地区に指定した効果を、植生の見地から検証し、今後の西大台利用調整地区の運営に生かすために植生調査、植生回復調査、希少植物調査及び蘚苔類被度調査を実施する。

(4) 大台ヶ原全体の変化に関するモニタリング

大台ヶ原全体の景観変化等を把握するためにメッシュ調査としてササ類被度調査、コケ類被度調査を実施する。

(5) ニホンジカの保護管理計画に基づく調査

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画(第3期)に基づき、ニホンジカの適正な生息密度への誘導・維持に資するために、緊急対策地区では、糞粒調査、糞塊調査、植生調査、下層植生調査、ササ稈高調査を、緊急対策地区隣接メッシュでは、糞粒調査、植生調査、ササ稈高調査を、重点監視地区では、糞粒調査、下層植生調査を実施する。

(6) 環境指標種調査(資料1-7)

植生タイプに対応した7ルートにおいて、鳥類テリトリーマッピング調査を実施する。